

終末期心不全に伴う苦痛緩和に対するモルヒネ塩酸塩錠の適応外使用について

● 背景

終末期の心不全患者さまを対象とした報告によると、60～88%に呼吸困難、69～82%に全身倦怠感、35～78%に疼痛を認めるといわれています。心不全治療を継続しつつ、症状の緩和を図る際に薬物治療が必要となります。緩和ケアは、がん以外の疾患をも対象にするという共通の前提に立ち、用いられる主な薬物についてはがん患者の際に用いられる薬物と同様です。オピオイドは、心不全の異常な換気パターンを改善する作用があり、呼吸困難、疼痛緩和をもたらします。心不全患者さまに対する経口オピオイドの呼吸困難の緩和効果について実証した研究において、経口オピオイドは慢性心不全患者さまの呼吸困難に対して長期的にも短期的にも効果があり、有害作用がないと報告されています。ただし、末期心不全患者さまの呼吸困難、疼痛緩和におけるオピオイドの使用方法は確立されていません。

(以上日本循環器学会「2021年改訂版 循環器疾患における緩和ケアについての提言」より抜粋)

● モルヒネ塩酸塩錠の効能効果

経口オピオイド製剤であるモルヒネ塩酸塩 10 mg錠は、①激しい疼痛時における鎮痛・鎮静、②激しい咳嗽発作における鎮咳、の効能効果を有し、用法用量は1回5-10mg、1日15mgを経口投与となっています。用法用量は、かつて粉末製剤があった頃に承認された名残で、現在は10 mg錠のみ製造され、管理上分割・粉砕が困難な薬剤となっています。

● 終末期心不全に伴う苦痛緩和に対するモルヒネ塩酸塩錠の適応外使用

ガイドラインに準拠した治療・管理を行う目的で、終末期心不全患者さまの疼痛および呼吸困難に対して初期量10 mgから、効果が不十分な場合は20 mgまで、症状、腎機能等に注意しながら適切に使用することを想定しています。

● 医療行為における人権・プライバシーの保護ならびに倫理的配慮

終末期心不全の苦痛を緩和することは、人権擁護につながる行為と考えられます。また、本医療行為に関して、個人情報特定される形で公表されることはありません。本治療によって期待される効果ならびに予想される副作用の可能性、ならびに適応外使用となることについて十分説明し、本人の同意を得ます。本人からの同意取得が困難な場合には、ご家族より同意を得ます。同意が得られない場合は、本薬剤を投与しません。またいつでも同意を撤回できます。

● 薬剤投与により生じ得る不利益・危険性

オピオイドで一般的に報告されている副作用が生じ得ます。

- 投与初期によく生じるもの:嘔気・嘔吐, 眠気, めまい・ふらつき, せん妄.
- 投与継続中によく生じるもの:便秘, 嘔気・嘔吐, 口腔内乾燥.
- 投与継続中に生じる可能性があるもの:視床下部-下垂体系の抑制, 免疫系の抑制.
- 発生が少ないもの:神経毒性(ミオクローヌス, アロディニア, 痛覚過敏、認知機能障害, 幻覚), 発汗, 瘙痒感.
- まれなもの:呼吸抑制, 精神的依存.

- **医療行為責任者ならびに問い合わせ先**

〒605-0981 京都市東山区本町 15-749

電話番号 075-561-1121 (病院代表)

京都第一赤十字病院 心臓センター循環器内科 部長 兵庫匡幸